

2018年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Toboku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本会計大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。このような理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のウェブサイト で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この調査報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をいただければ幸いである。

本会計大学院は2018年度に会計大学院評価機構による認証評価を受け、すべての基準に適合しているという評価を受けた。2020年度からは新しいコースを設置する予定であり、カリキュラムの体系も見直す予定である。新しいカリキュラム体系の構築に今回のアンケートの結果を活かしたいと考えている。

2019年7月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2019a.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、2019年1月12日（土）から1月25日（金）の間に受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

- ①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」（巻末資料 1）
- ②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末資料 2）

両アンケートともに無記名であり、「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」は1学生につき1回限りの回答とした。「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上である全ての講義を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。なお、講義担当教員の希望があったものについては、履修者が5名未満の場合でも実施している。

本報告書では、まず「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析結果を示して問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目18の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告されている。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2018年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修する「財務会計2」（会計大学院学生の履修者21名）において配布・回収され、この科目を履修していない学生については会計大学院事務分室で配布・回収を行った。回収数は19である（ただし、項目によって無回答の場合もある）。会計大学院の在籍学生数の5割弱であるが、アンケート結果には会計大学院学生の総意がある程度反映されていると考える。

3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、直近8年度分の推移を示す。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1（表は未掲載）は受講者属性を問うものであり、19名の回答のうち、9名が公認会計士コース1年生であり、7名が公認会計士コース2年、3名が会計リサーチコースであった。本アンケート回答者は全員が会計大学院学生であった。会計リサーチコースの回答者が少ないものの、本アンケート結果は本会計大学院学生のカリキュラムに対する声がある程度反映しているものと考えられる。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
適切である	39.47%	35.71%	61.90%	65.22%	22.22%	44.44%	61.11%	47.37%
ほぼ適切である	31.58%	35.71%	28.57%	17.39%	66.67%	40.74%	27.78%	36.84%
どちらともいえない	26.32%	17.86%	0.00%	8.70%	11.11%	11.11%	5.56%	5.26%
やや不適切である	2.63%	10.71%	9.52%	8.70%	0.00%	0.00%	5.56%	10.53%
不適切である	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.70%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	38	28	21	23	18	27	18	19

設問3：セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
適切である	18.42%	31.03%	55.00%	47.83%	44.44%	37.04%	27.78%	47.37%
ほぼ適切である	23.68%	31.03%	30.00%	21.74%	38.89%	37.04%	33.33%	26.32%
どちらともいえない	18.42%	20.69%	10.00%	17.39%	5.56%	14.81%	11.11%	10.53%
やや不適切である	28.95%	13.79%	5.00%	8.70%	0.00%	7.41%	27.78%	15.79%
不適切である	10.53%	3.45%	0.00%	4.35%	11.11%	3.70%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	38	29	20	23	18	27	18	19

設問4：オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
5回以上	10.53%	6.90%	13.04%	21.74%	5.56%	18.52%	0.00%	5.26%
4回または3回	2.63%	17.24%	13.04%	13.04%	16.67%	3.70%	5.56%	5.26%
2回	10.53%	3.45%	4.35%	4.35%	5.56%	7.41%	0.00%	15.79%
1回	10.53%	27.59%	13.04%	21.74%	16.67%	18.52%	22.22%	26.32%
利用しなかった	65.79%	44.83%	56.52%	39.13%	55.56%	51.85%	72.22%	47.37%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	38	29	23	23	18	27	18	18

設問5：セメスター開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
役に立った	23.68%	13.79%	60.00%	69.57%	38.89%	40.74%	38.89%	38.89%
まあまあ役に立った	36.84%	37.93%	25.00%	21.74%	44.44%	33.33%	27.78%	38.89%
どちらともいえない	23.68%	24.14%	10.00%	4.35%	5.56%	7.41%	11.11%	5.56%
あまり役に立たなかった	7.89%	17.24%	0.00%	0.00%	5.56%	11.11%	0.00%	11.11%
役に立たなかった	7.89%	6.90%	5.00%	4.35%	5.56%	7.41%	22.22%	5.56%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	38	29	20	23	18	27	18	18

設問 6 : GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか.

選択項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
適切である	10.53%	24.14%	18.18%	52.17%	33.33%	11.11%	27.78%	50.00%
ほぼ適切である	23.68%	17.24%	45.45%	4.35%	27.78%	44.44%	27.78%	38.89%
どちらともいえない	34.21%	41.38%	27.27%	26.09%	22.22%	18.52%	27.78%	0.00%
やや不適切である	18.42%	10.34%	9.09%	13.04%	11.11%	14.81%	16.67%	11.11%
不適切である	13.16%	6.90%	0.00%	4.35%	5.56%	11.11%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	38	29	22	23	18	27	18	18

設問 7 : 受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか.

選択項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
5 時間以上	43.24%	35.71%	25.00%	27.27%	44.44%	55.56%	41.18%	38.89%
4-5 時間	10.81%	17.86%	15.00%	18.18%	5.56%	11.11%	35.29%	5.56%
3-4 時間	8.11%	10.71%	15.00%	18.18%	11.11%	7.41%	17.65%	27.78%
1-3 時間	24.32%	17.86%	15.00%	13.64%	11.11%	0.00%	0.00%	11.11%
1 時間未満	13.51%	17.86%	30.00%	22.73%	27.78%	25.93%	5.88%	16.67%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	37	28	20	22	18	27	17	18

設問 8 : e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか.

選択項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
役に立った	60.00%	71.05%	55.17%	55.00%	60.87%	74.07%	61.11%	58.82%
まあまあ役に立った	35.00%	23.68%	31.03%	35.00%	21.74%	14.81%	27.78%	35.29%
どちらともいえない	5.00%	5.26%	13.79%	5.00%	13.04%	3.70%	5.56%	5.88%
あまり役に立たなかった	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%	4.35%	3.70%	5.56%	0.00%
役に立たなかった	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.70%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	20	38	29	20	23	27	18	17

設問 9 : 在学中の受験を考えていますか.

選択項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
考えている	59.46%	48.28%	55.00%	47.83%	61.11%	59.26%	72.22%	66.67%
まだ決めていない	10.81%	13.79%	20.00%	21.74%	16.67%	3.70%	11.11%	0.00%
考えていない	29.73%	37.93%	25.00%	30.43%	22.22%	37.04%	16.67%	33.33%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	37	29	20	23	18	27	18	18

設問 10 : OB 会について

選択項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
賛成	78.38%	67.86%	65.00%	86.96%	64.71%	80.77%	88.89%	72.22%
反対	2.70%	10.71%	10.00%	4.35%	5.88%	3.85%	0.00%	0.00%
分からない	18.92%	21.43%	25.00%	8.70%	29.41%	15.38%	11.11%	27.78%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	37	28	20	23	18	26	18	18

3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問2から10の集計結果をもとに、問題点を抽出するとともに対応を検討する。

設問2（基礎、展開、実践・応用の科目配置）については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答してもらった。「適切である」と回答した学生の割合は47.37%、「ほぼ適切である」と回答した学生と合わせると84.21%となり、現行の科目配置のバランスは学生たちに高く評価されていると考えられる。

設問3（Semester間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」と回答した学生の割合は47.37%、「ほぼ適切である」と回答した学生と合わせると73.69%となり、2017年度と比較すると10%程度改善している。ただし、「やや不適切である」が15.79%と、一定数の学生は依然としてSemester間で開設授業科目のバランスにかたよりが生じていると考えている。今後も引き続きSemester間のバランスに注意して開設科目を計画する必要がある。

設問4（オフィスアワー）については、「1回」あるいは「利用しなかった」と回答した学生が7割以上おり、これまでの傾向と同じくオフィスアワーの活用は多くない。ただし、2017年度と比べると20%程度改善しており、オフィスアワーの活用を学生に周知した成果がある程度得られたと考えている。なお、多くの学生は授業終わりや個別にアポイントをとって質問等を行っているのが実態であり、オフィスアワーの利用の少なさが直ちに問題になったり、オフィスアワーが必要ないという結論につながることはないと考えている。

設問5（個人面談）については、これまでと同様に「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が77.78%と高水準であり、効果が高いことが示唆されている。ただし、「あまり役に立たなかった」、「役に立たなかった」と回答した学生も合計で16.67%ほどいることから、改善の余地はある。今後も、個々の学生の進路・学習状況に応じて面談の内容を工夫する必要があるといえよう。

設問6（GPAによる評価）では、「適切である」あるいは「ほぼ適切である」と回答した学生が合計で88.89%となり、適切に成績評価が行われていると多くの学生が評価していることがわかる。2017年度は「適切である」あるいは「ほぼ適切である」と回答した学生が合計で55.56%であったことから、大幅に改善したといえる。GPAは様々な用途に利用されることがあるが、本会計大学院では、自己管理のための利用を特に強調している。さらにGPAによる評価をもとに個人面談等を行うため、こうした趣旨が学生にも浸透してきたと考えている。

設問7（受験勉強にかける時間）では、「5時間以上」と「4-5時間」の合計が44.45%程度と、2017年度と比べると3割程度落ち込んでいる。多くの学生は受験勉強に積極的に取り組んでいるものの、一定数の学生は自主的な勉強時間を十分に確保できていないものが含まれるので、個人面談等で学習状況の継続的な把握が必要であると考えられる。

設問8（email, HPを用いた連絡システム）については、これまでどおり「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が94.11%あり、現行の連絡システムで問題がないものと考えられる。

設問9（在学中の受験）では、在学中の受験を「考えている」と回答した学生の割合は66.67%と例年と同程度の水準であった。本アンケートの回答者の多くが財務会計2の履修者であることを考えると、会計大学院全体の傾向とは異なるかもしれないが、在学中に受験する学生の数は多いと考えられる。これらの結果を踏まえて、より充実したカリキュラムを設計していきたいと考える。

4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、履修者が5名以上の授業及び担当教員からの希望があった16科目について実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。なお、「内部統制の実務」には、「監査計画の編成法1」の履修者2名の回答も含む点に留意されたい。

授業科目名	履修者数	回収数
原価計算2	18	17
簿記2	22	20
情報システム設計	13	12
内部統制の実務	5	7
ビジネス・プレゼンテーション1	9	8
ビジネス・プレゼンテーション2	6	6
IT監査	10	10
国際監査	6	5
管理会計1	20	6
財務会計の理論と実証	6	6
財務会計2	21	14
公会計1	15	11
事例研究（会計職業倫理）	6	6
IFRS 1	9	9
コーポレートファイナンス	21	19
消費税法	11	10
合計	198	166

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、述べ履修者数198名に対して166名から回答を得た。アンケートの回答率は83.84%と高水準であり、結果の信頼性は高いと言える。なお、質問項目17は科目担当教員が独自に設定できる質問であり、アンケートの集計には含めていない。

4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどの値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	57	137	3	4	6	60	123	134	132	126	141	119	134	101	131	50
4	83	16	3	2	3	77	30	24	27	27	22	32	24	21	29	-
3	20	3	20	18	16	22	8	6	6	11	3	15	8	20	5	74
2	2	5	18	20	23	3	1	1	1	2	0	0	0	15	1	-
1	2	3	54	65	50	0	0	1	0	0	0	0	0	7	0	35
0	1	-	67	57	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	165	164	165	166	164	162	162	166	166	166	166	166	166	164	166	159
平均値	4.14	4.70	1.07	1.13	1.13	4.20	4.70	4.74	4.75	4.67	4.83	4.63	4.76	4.18	4.75	3.19
中央値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
最頻値	4	5	0	1	0	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
標準偏差	0.84	0.95	1.20	1.17	1.29	0.86	0.59	0.61	0.55	0.65	0.42	0.64	0.53	1.25	0.53	1.46

表2：アンケートの基本統計量

これまでのアンケート結果と同様、設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）、設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も4か5である。この傾向は過去数年と大きな違いはなく、会計大学院の講義に対する評価はこれまでと変わらず良好である。ただし、授業の予習、復習、宿題にかかる時間はあまり多くない状態が何年も続いている。設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）に回答した学生のうちの半数以上が2時間以下しか学習時間を確保していない。これは過年度の傾向と同様であり、継続的にこれに対処する方法を模索する必要がある。全体として、学生の各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、予習・復習・宿題にかかる時間を一定数確保するように授業を設計する必要があるといえる。

4.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、0.50以上の相関係数については太字にしている。設問16の資格については、より高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1.000															
2 出席	-0.120	1.000														
3 予習	-0.210	0.023	1.000													
4 復習	-0.155	0.084	0.778	1.000												
5 宿題	-0.108	0.000	0.682	0.731	1.000											
6 理解	-0.137	0.128	-0.080	-0.060	-0.111	1.000										
7 難易度	0.070	0.092	-0.002	-0.074	-0.105	0.386	1.000									
8 教員準備	-0.036	-0.024	-0.007	-0.080	-0.087	0.152	0.544	1.000								
9 プレゼン	0.023	-0.046	0.010	0.003	0.023	0.131	0.501	0.744	1.000							
10 教材	0.041	0.033	-0.046	-0.126	-0.141	0.162	0.626	0.661	0.644	1.000						
11 評価方法	-0.091	0.001	-0.071	-0.140	-0.171	0.169	0.384	0.511	0.524	0.565	1.000					
12 シラバス	-0.064	-0.010	0.027	-0.065	-0.063	0.110	0.316	0.413	0.451	0.422	0.480	1.000				
13 教員評価	0.130	-0.039	-0.048	-0.116	-0.121	0.197	0.666	0.628	0.792	0.607	0.441	0.444	1.000			
14 対試験	0.100	0.042	0.130	0.177	0.071	0.191	0.336	0.094	0.166	0.191	0.155	0.232	0.297	1.000		
15 キャリア	0.037	0.013	0.095	-0.016	0.023	0.225	0.442	0.298	0.339	0.571	0.401	0.216	0.360	0.269	1.000	
16 資格	0.070	-0.049	0.077	0.007	-0.009	0.032	0.187	0.086	0.157	0.158	0.163	0.035	0.112	0.123	0.066	1.000

表3：質問項目間の相関関係

過年度と同様に、設問3（予習）、設問4（復習）と設問5（宿題）の間で比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのもので、予習等をよく行う学生は復習等もよく行うことを示している。また、そうした学生は宿題等に取り組む時間が多いことからある程度宿題等を課すような仕組みが有効であると考えられる。

ここでは、授業の難易度（設問7）と教員の評価（設問13）を中心に検討を行う。授業の難易度（設問7）は、教員の準備（設問8）、プレゼン（設問9）、教材（設問10）、教員評価（設問13）と高い相関関係を有する。これらのことから、適切な授業設計が授業の難易度の適切な管理につながるといえる。なお、例年、授業の難易度（設問7）は授業の理解度（設問6）とも0.5以上の相関関係を有していたが、今回はそれほど高い相関とはなっていない。

教員の評価（設問13）については、授業の難易度（設問7）、教員の準備（設問8）、教員のプレゼン（設問9）、教材（設問10）と高い相関関係を有する。これらの関係は従来から確認される傾向であり、授業の難易度を適切に管理することは、教員の評価にも繋がっていると考えられる。

これらの傾向は過去と同様のものである。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院WEBサイトを参照されたい（<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2019a.html>）。

4.4. 設問ごとの集計結果と所見（自己評価）

以下では、それぞれの設問についての集計結果と過去4年間の推移を示し、各々所見を示す。なお、アンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
公認会計士コース（2年）	33.47%	35.82%	31.28%	32.14%	31.28%	26.06%	31.28%	34.55%
公認会計士コース（1年）	52.99%	52.24%	55.38%	48.81%	55.31%	60.56%	55.31%	50.30%
会計リサーチコース	7.97%	9.45%	11.28%	11.90%	6.15%	4.93%	6.15%	12.12%
経済経営学専攻	2.39%	2.49%	0.51%	5.95%	0.56%	0.70%	0.56%	1.21%
経済学部	1.59%	0.00%	1.54%	0.00%	6.70%	3.52%	6.70%	1.21%
その他	0.00%	0.00%	0.00%	1.19%	0.00%	4.23%	0.00%	0.61%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	201	195	168	179	142	179	165

受講者属性に大きな傾向の変化はなかった。

設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
90%以上	88.26%	86.87%	88.48%	70.41%	84.36%	65.49%	84.36%	83.54%
89-70%	8.50%	8.08%	4.19%	18.34%	8.38%	26.06%	8.38%	9.76%
69-50%	0.81%	3.03%	1.57%	6.51%	2.23%	2.82%	2.23%	1.83%
49-20%	0.40%	2.02%	2.09%	1.78%	1.68%	3.52%	1.68%	3.05%
20%未満	2.02%	0.00%	3.66%	2.96%	3.35%	2.11%	3.35%	1.83%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	247	198	191	169	179	142	179	164

2016年度後期、2017年度後期に90%以上出席した学生の割合が7割前後となっていることが問題視されたが、2018年度後期は8割程度に回復しており、また2018年度前期と比べても明らかな減少は確認されない。出席率が低下しないように各教員が工夫した成果であると考えられる。

以下、設問3から設問5は、学生の時間外での学習に係る設問であることからまとめて検討する。

設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
5時間以上	7.60%	10.40%	2.05%	7.10%	4.49%	2.82%	4.49%	1.82%
4-5時間	0.80%	2.48%	2.56%	1.18%	2.25%	1.41%	2.25%	1.82%
3-4時間	2.80%	2.97%	5.64%	7.10%	3.93%	2.11%	3.93%	12.12%
2-3時間	10.00%	13.37%	11.28%	16.57%	11.80%	12.68%	11.80%	10.91%
1-2時間	38.00%	41.58%	34.87%	28.40%	34.83%	34.51%	34.83%	32.73%
1時間未満	40.80%	29.21%	43.59%	39.64%	42.70%	46.48%	42.70%	40.61%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	250	202	195	169	178	142	178	165

設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
5時間以上	8.03%	8.04%	7.73%	8.33%	7.34%	4.23%	7.34%	2.41%
4-5時間	2.01%	2.01%	2.06%	1.19%	1.69%	1.41%	1.69%	1.20%
3-4時間	3.61%	5.53%	6.19%	11.31%	3.95%	4.93%	3.95%	10.84%
2-3時間	17.67%	13.57%	11.34%	12.50%	14.12%	15.49%	14.12%	12.05%
1-2時間	42.57%	46.23%	38.66%	36.90%	46.33%	41.55%	46.33%	39.16%
1時間未満	26.10%	24.62%	34.02%	29.76%	26.55%	32.39%	26.55%	34.34%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	249	202	194	168	177	142	177	166

設問 5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
5 時間以上	10.08%	20.00%	8.25%	18.34%	9.71%	3.68%	9.71%	3.66%
4-5 時間	0.81%	6.50%	5.67%	7.10%	4.57%	5.15%	4.57%	1.83%
3-4 時間	10.48%	7.00%	5.67%	8.88%	10.29%	8.82%	10.29%	9.76%
2-3 時間	18.15%	11.50%	19.07%	11.83%	14.86%	13.97%	14.86%	14.02%
1-2 時間	31.45%	33.50%	30.41%	30.18%	32.57%	34.56%	32.57%	30.49%
1 時間未満	29.03%	21.50%	30.93%	23.67%	28.00%	33.82%	28.00%	40.24%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	248	201	194	169	175	136	175	164

設問 3 から設問 5 に回答した学生のうちの半数以上が 2 時間以下しか学習時間を確保しておらず、過年度の傾向と同様となった。学習時間の確保は担当教員にとって継続的な課題であるが、予習、復習、宿題のいずれに重点を置くかは科目担当員の裁量によるところである。科目特性に応じて、何に力点を置くのかを明示し、学習時間を学生に確保させるように継続して工夫する必要があるといえよう。

設問 6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
理解できた	38.25%	36.14%	24.10%	33.73%	32.40%	38.30%	32.40%	37.04%
ほぼ理解できた	37.85%	44.55%	49.74%	46.15%	46.93%	50.35%	46.93%	47.53%
どちらともいえない	20.72%	16.34%	21.54%	15.98%	15.64%	9.93%	15.64%	13.58%
あまり理解できなかった	2.39%	2.48%	3.59%	1.78%	5.03%	0.71%	5.03%	1.85%
理解できなかった	0.80%	0.50%	1.03%	2.37%	0.00%	0.71%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	201	195	169	179	141	179	162

講義内容を「理解できた」または「ほぼ理解できた」と回答した学生の割合はこれまでと同様高い水準を維持している。この水準を今後も維持する必要がある。

設問 7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
適切	68.13%	69.50%	63.59%	65.68%	63.69%	63.12%	63.69%	75.93%
ほぼ適切	23.51%	24.00%	25.13%	26.63%	28.49%	31.21%	28.49%	18.52%
どちらともいえない	7.57%	4.50%	10.77%	5.33%	5.03%	4.26%	5.03%	4.94%
やや不適切	0.80%	1.50%	0.00%	1.18%	2.23%	0.71%	2.23%	0.62%
不適切	0.00%	0.50%	0.51%	1.18%	0.56%	0.71%	0.56%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	201	195	169	179	141	179	162

難易度が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は従来と同じように 9 割を超えており、難易度の設定は適切であると考えられる。今後もこの水準を維持したいと考えている。

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
十分	81.67%	80.60%	73.58%	76.19%	80.34%	72.86%	80.34%	80.72%
ほぼ十分	10.76%	12.94%	18.65%	18.45%	15.17%	24.29%	15.17%	14.46%
どちらともいえない	5.18%	3.98%	5.70%	2.98%	2.81%	1.43%	2.81%	3.61%
やや不十分	1.20%	0.50%	1.04%	0.60%	1.69%	0.71%	1.69%	0.60%
不十分	1.20%	1.99%	1.04%	1.79%	0.00%	0.71%	0.00%	0.60%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	201	193	168	178	140	178	166

教員の準備が「十分」または「ほぼ十分」と回答した学生の割合は 9 割を超えており、従来と同じように高い水準となった。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
良かった	76.10%	77.11%	69.74%	73.37%	71.51%	70.71%	71.51%	79.52%
まあまあ良かった	15.54%	16.92%	23.08%	21.89%	21.23%	23.57%	21.23%	16.27%
どちらともいえない	4.78%	3.98%	4.10%	1.78%	4.47%	2.14%	4.47%	3.61%
やや悪かった	1.99%	1.49%	2.05%	1.78%	1.68%	2.86%	1.68%	0.60%
悪かった	1.59%	0.50%	1.03%	1.18%	1.12%	0.71%	1.12%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	201	195	169	179	140	179	166

教員のプレゼンテーションが「良かった」または「まあまあ良かった」と回答した学生は9割を超えており、従来と同じように高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
適切	70.52%	74.63%	69.23%	69.82%	42.80%	70.00%	65.54%	75.90%
ほぼ適切	19.52%	19.90%	16.92%	21.30%	16.24%	26.43%	24.86%	16.27%
どちらともいえない	7.57%	3.48%	11.79%	7.10%	4.06%	1.43%	6.21%	6.63%
やや不適切	0.80%	0.50%	0.51%	0.00%	2.21%	2.14%	3.39%	1.20%
不適切	1.59%	1.49%	1.54%	1.78%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	201	195	169	171	140	177	166

テキスト等が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同じように高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
適切	76.49%	82.59%	73.33%	71.01%	70.62%	67.86%	70.62%	84.94%
ほぼ適切	19.12%	14.43%	14.87%	22.49%	23.73%	25.00%	23.73%	13.25%
どちらともいえない	3.98%	1.99%	10.26%	5.33%	3.95%	5.00%	3.95%	1.81%
やや不適切	0.00%	0.50%	0.00%	0.00%	0.56%	2.14%	0.56%	0.00%
不適切	0.40%	0.50%	1.54%	1.18%	1.13%	0.00%	1.13%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	201	195	169	177	140	177	166

成績評価の方法が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同様に高い水準にある。成績評価はGPAによる評価の基礎となっているため、学生からの納得感は重要である。ほとんどの学生は適切に成績評価が行われていると感じており、今後もこれを維持する必要がある。

設問12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
役に立った	68.92%	66.67%	60.51%	63.91%	58.19%	50.71%	58.19%	71.69%
まあまあ役に立った	21.12%	24.88%	22.05%	24.26%	28.81%	32.86%	28.81%	19.28%
どちらともいえない	8.76%	7.96%	14.87%	10.06%	11.30%	12.86%	11.30%	9.04%
あまり役に立たなかった	0.80%	0.00%	0.51%	0.00%	0.00%	2.14%	0.00%	0.00%
役に立たなかった	0.40%	0.50%	2.05%	1.78%	1.69%	1.43%	1.69%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	201	195	169	177	140	177	166

シラバスが「役に立った」または「まあまあ役に立った」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同じように高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 13：総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
評価できる	76.49%	80.10%	71.28%	77.51%	73.18%	72.14%	73.18%	80.72%
まあまあ評価できる	18.73%	14.43%	19.49%	18.34%	21.23%	22.14%	21.23%	14.46%
どちらともいえない	1.59%	3.98%	7.69%	2.37%	5.03%	3.57%	5.03%	4.82%
あまり評価できない	1.99%	0.50%	0.51%	0.00%	0.00%	1.43%	0.00%	0.00%
評価できない	1.20%	1.00%	1.03%	1.78%	0.56%	0.71%	0.56%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	201	195	169	179	140	179	166

教員のパフォーマンスを「評価できる」または「まあまあ評価できる」とした学生の割合は9割程度であり、従来と同様に高い水準を維持している。総合的に教員に対する学生からの満足度は高いと考えられるため、今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
役立つ	57.37%	59.70%	53.09%	55.15%	57.80%	50.74%	57.80%	61.59%
まあまあ役に立つ	18.73%	15.42%	21.13%	20.61%	26.01%	25.74%	26.01%	12.80%
どちらともいえない	16.33%	13.93%	16.49%	12.73%	8.67%	14.71%	8.67%	12.20%
あまり役に立たない	3.19%	6.47%	2.58%	3.03%	4.05%	5.88%	4.05%	9.15%
役に立たない	4.38%	4.48%	6.70%	8.48%	3.47%	2.94%	3.47%	4.27%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	201	194	165	173	136	173	164

公認会計士試験の受験に「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は、これまでと同様で7～8割の水準にあった。会計大学院は必ずしも公認会計士試験に「直結」する科目ばかりが設定されている訳ではないが、この程度の水準は維持する必要があると考える。

設問 15：この講義は将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。

選択項目	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期	2018 前期	2018 後期
役立つ	70.28%	71.14%	56.54%	72.19%	67.60%	66.19%	67.60%	78.92%
まあまあ役に立つ	18.07%	23.38%	29.32%	20.71%	25.14%	27.34%	25.14%	17.47%
どちらともいえない	8.43%	4.48%	8.90%	4.73%	4.47%	5.76%	4.47%	3.01%
あまり役に立たない	2.81%	0.50%	4.71%	1.18%	2.23%	0.00%	2.23%	0.60%
役に立たない	0.40%	0.50%	0.52%	1.18%	0.56%	0.72%	0.56%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	251	197	191	169	179	139	179	166

将来のキャリアに「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は9割程度であり、従来と同じように高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

最後に、設問 16「あなたがすでに合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい」につき、2018 年度後期の集計結果について述べる。ここでは、資格試験を3段階（①日商簿記1級レベル以上、②2級レベル、③それ以下）に分けて、どの段階の知識を有している状況にあるのかについて質問した。入試段階で一定の簿記の素養を確認しているため、学生は概ね日商簿記2級レベル以上の実力は有していると考えられる。ただし、本質問では、資格の有無を問うているので、必ずしも実力と連動するわけではないことに留意が必要である。

2018 年度後期では、①31%、②47%、③22%程度であった。2018 年度後期については、およそ半数の学生は2級レベルの知識を有しており、1級レベル以上の知識を有している学生は3割程度にとどまる。また、3級以下の学生も2割程度いることから、必ずしも計算能力の高くない学生が存在することに留意して授業設計を行う必要があるといえる。

4.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

5. 結び

2018年度後期における「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」と「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果等をふまえると、本会計大学院の授業は総合して良好な評価を得ていると考えられる。本会計大学院が抱える課題については、学生の学習時間の確保である。予習・復習・宿題にかける1日あたりの時間は、多くの学生で2時間以下となっている。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫することが必要であると考え。また、会計大学院のカリキュラムについては、前期と後期の設置授業科目のバランスに留意しつつ、学生のニーズ等に照らして科目の統廃合などを継続して検討する必要があると考える。最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げる。

資料1：2018年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2018年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 会計リサーチコース (0) その他

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
3	セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	オフィスマナーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (2) 1回 (4) 4回または3回 (1) 利用しなかった (3) 2回
5	セメスター開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
6	成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (2) 1-3時間 (4) 4-5時間 (1) 1時間未満 (3) 3-4時間
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体としてe-mail、HPを用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院OB会を組織したいと考えています。OB会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない 《特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。》
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料2：2018年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2017年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (4) 公認会計士コース（1年） (3) 会計リサーチコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士 短答式・論文集 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し	(5) と (3) の両者に該当する方は、(5) のみ回答してください。
17	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
18	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2018年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	7	36.84%
	公認会計士コース(1年)	9	47.37%
	会計リサーチコース	3	15.79%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	19	100.00%
設問2 基礎, 展開, 実践・応用科目の配置は適切だと思いますか.	適切である	9	47.37%
	ほぼ適切である	7	36.84%
	どちらともいえない	1	5.26%
	やや不適切である	2	10.53%
	不適切である	0	0.00%
	合計	19	100.00%
設問3 Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか.	適切である	9	47.37%
	ほぼ適切である	5	26.32%
	どちらともいえない	2	10.53%
	やや不適切である	3	15.79%
	不適切である	0	0.00%
	合計	19	100.00%
設問4 オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数.	5回以上	1	5.26%
	4回または3回	1	5.26%
	2回	3	15.79%
	1回	5	26.32%
	利用しなかった	9	47.37%
	合計	19	100.00%
	設問5 Semester開始時の個人面談は, 学習計画を立てる上で役に立ちましたか.	役に立った	7
まあまあ役に立った		7	38.89%
どちらともいえない		1	5.56%
あまり役に立たなかった		2	11.11%
役に立たなかった		1	5.56%
合計		18	100.00%
設問6 GPAによって学生の能力を適切に評価できると思えますか.	適切である	9	50.00%
	ほぼ適切である	7	38.89%
	どちらともいえない	0	0.00%
	やや不適切である	2	11.11%
	不適切である	0	0.00%
	合計	18	100.00%
設問7 受験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか.	5時間以上	7	38.89%
	4-5時間	1	5.56%
	3-4時間	5	27.78%
	1-3時間	2	11.11%
	1時間未満	3	16.67%
	合計	18	100.00%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡システムは役に立ちましたか.	役に立った	10	58.82%
	まあまあ役に立った	6	35.29%
	どちらともいえない	1	5.88%
	あまり役に立たなかった	0	0.00%
	役に立たなかった	0	0.00%
	合計	17	100.00%
設問9 在学中の受験を考えていますか.	考えている	12	66.67%
	まだ決めていない	0	0.00%
	考えていない	6	33.33%
	合計	18	100.00%
設問10 OB会について	賛成	13	72.22%
	反対	0	0.00%
	分からない	5	27.78%
	合計	18	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります.

資料4：2018年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合
設問1 あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	公認会計士コース(2年)	57	34.55%	設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	132	79.52%
	公認会計士コース(1年)	83	50.30%		ほぼ十分	27	16.27%
	会計リサーチコース	20	12.12%		どちらともいえない	6	3.61%
	経済経営学専攻	2	1.21%		やや不十分	1	0.60%
	経済学部	2	1.21%		不十分	0	0.00%
	その他	1	0.61%		合計	166	100.00%
合計		165	100.00%	設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	126	75.90%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	137	83.54%		ほぼ適切	27	16.27%
	89-70%	16	9.76%		どちらともいえない	11	6.63%
	69-50%	3	1.83%		やや不適切	2	1.20%
	49-20%	5	3.05%		不適切	0	0.00%
	20%未満	3	1.83%	合計	166	100.00%	
合計		164	100.00%	設問11 この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか。	適切	141	84.94%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	3	1.82%		ほぼ適切	22	13.25%
	4-5時間	3	1.82%		どちらともいえない	3	1.81%
	3-4時間	20	12.12%		やや不適切	0	0.00%
	2-3時間	18	10.91%		不適切	0	0.00%
	1-2時間	54	32.73%	合計	166	100.00%	
1時間未満	67	40.61%	設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	119	71.69%	
合計		165		100.00%	まあまあ役に立った	32	19.28%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	4		2.41%	どちらともいえない	15	9.04%
	4-5時間	2		1.20%	あまり役に立たなかった	0	0.00%
	3-4時間	18		10.84%	役に立たなかった	0	0.00%
	2-3時間	20	12.05%	合計	166	100.00%	
	1-2時間	65	39.16%	設問13 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	評価できる	134	80.72%
1時間未満	57	34.34%	まあまあ評価できる		24	14.46%	
合計		166	100.00%		どちらともいえない	8	4.82%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	6	3.66%		あまり評価できない	0	0.00%
	4-5時間	3	1.83%		評価できない	0	0.00%
	3-4時間	16	9.76%	合計	166	100.00%	
	2-3時間	23	14.02%	設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	101	61.59%
	1-2時間	50	30.49%		まあまあ役に立つ	21	12.80%
1時間未満	66	40.24%	どちらともいえない		20	12.20%	
合計		164	100.00%		あまり役に立たない	15	9.15%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	60	37.04%		役に立たない	7	4.27%
	ほぼ理解できた	77	47.53%	合計	164	100.00%	
	どちらともいえない	22	13.58%	設問15 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	131	78.92%
	あまり理解できなかった	3	1.85%		まあまあ役に立つ	29	17.47%
	理解できなかった	0	0.00%		どちらともいえない	5	3.01%
合計		162	100.00%		あまり役に立たない	1	0.60%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	123	75.93%		役に立たない	0	0.00%
	ほぼ適切	30	18.52%	合計	166	100.00%	
	どちらともいえない	8	4.94%	設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	日商簿記1級レベル以上	50	31.45%
	やや不適切	1	0.62%		日商簿記2級	74	46.54%
	不適切	0	0.00%		上記について無し	35	22.01%
合計		162	100.00%				
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	134	80.72%		合計	159	100.00%
	ほぼ十分	24	14.46%				
	どちらともいえない	6	3.61%				
	やや不十分	1	0.60%				
	不十分	1	0.60%				
合計		166	100.00%				

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2018 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	米谷 健司
委員	青木 雅明
委員	松田 康弘
委員	吉永 裕登

会計大学院アンケート実施報告書 2018 年度後期

2019 年 7 月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会